

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

香川県三豊市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

香川県三豊市 SDGs 未来都市計画

特に注力する先導的取組

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

香川県三豊市 SDGs 未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

多極分散ネットワーク型まちづくりによるひろく豊かな田園都市を実現する。

A I や I o T を積極的に活用した三豊独自のスタイルを確立し、様々なまちの課題解決や産業の育成等に取り組む。

また、産業創造拠点や次世代育成拠点、地域コミュニティ拠点といったプロジェクト拠点を整備し、多極で目的を分担するとともに、まちに具体的なゾーニングを施し、合理的かつ効果的なまちづくりを進めていく。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と地域革新の成長をつくらう	 13 気候変動に具体的な対策を
	 3 すべての人に健康と福祉を	
	 11 住み続けられるまちづくりを	
	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光入込客数【8.2、8.3】	2018年度 1,695 千人	2020年度 1,281 千人	2024年度 2,000 千人	-136%
2	農地所有的確法人数【9.4】	2017年度 26 法人	2020年度 24 法人	2023年度 30 法人	-50%
3	特定健康診査受診率【3.8】	2018年度 45.1 %	2020年度 24.2 %	2024年度 60.0 %	-140%
4	まちづくり推進隊自主事業における 役務提供者数【11.3】	2018年度 9,719 人	2020年度 4,726 人	2024年度 21,000 人	-44%
5	移住・定住支援制度利用の移住 世帯数【17.17】	2018年度 67 世帯	2020年度 62 世帯	2024年度 80 世帯	-38%
6	市域の温室効果ガス排出量 【13.2】	2017年度 1,045,952 t-CO2	2020年度 - t-CO2	2030年度 879,243 t-CO2	-

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

ほとんどすべての指標において、目標に対してマイナスの数値となっているが、主な要因は新型コロナウイルス感染症による、外出・移動自粛や事業未実施によるものである。

農地所有的確法人数が減少している原因は、法人の経営状況等により資格要件を満たさなくなったためであるが、2021年度においては既に2法人が新規に設立されており、必ずしも悪化傾向にあるとは言えない。

また、市域の温室効果ガス排出量については、数値の一部がまだ公表されていないため現状値を算出できないが、目標値の達成に向かって減少傾向にある。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	観光収益の向上と地域法人化の促進・観光関連企業の誘致	宿泊客数	2018年 18千人			2020年 15千人	2024年 40千人	-14%
2	新技術開発・商品企画の協働法人の増加	先端設備等導入企画認定における設備投資額	2017年度 0億円			2020年度 8.7億円	2023年度 19億円	46%
3	人流強化のための企業CSR活動の活性化・企業のまちづくり参画誘導	敷地面積5ha以上を有する立地企業数	2018年度 7件			2020年度 8件	2024年度 9件	50%
4	AI・ICT活用による多極分散ネットワーク型まちづくりの強化	新しい公共交通手段（コミュニティバス、汽船、JR、タクシー以外）	2017年度 0事業			2020年度 1事業	2024年度 3事業	33%
5	移住・定住の促進と支援	移住・定住支援制度の利用移住世帯数	2017年度 67世帯			2020年度 62世帯	2024年度 80世帯	-38%
6	移住・定住の促進と支援	空き家バンク登録件数	2017年度 76件			2020年度 63件	2023年度 80件	-325%
7	環境都市みとよ＝最新鋭ごみ処理施設	リサイクル率	2018年度 63.9%			2020年度 65.3%	2024年度 64.6%	203%
8	有害鳥獣の駆除	有害鳥獣捕獲数（イノシシ）	2018年度 1,503頭			2020年度 1,954頭	2024年度 1,500頭	-30%
9	タラ財団の海洋環境調査への支援	リサイクル率	2018年度 63.9%			2020年度 65.3事業	2024年度 64.6%	203%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

現在、賛助企業・協力企業による新事業の実証実験を行っている段階であり、未だ事業スキームの確立には至っていない。
しかし、SDGsに積極的に取り組む地域事業者等と連携に向けた基盤づくりの一環として、「みとよSDGs推進パートナー」制度を設置し、市と事業者との、また、事業者同士でのネットワークの構築に取り組んでいる。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

観光や移住といった分野においては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、思わしい結果となっていない。
しかし、比較的影響の薄いと思われるそれ以外の取組については、順調な進捗となっている。
唯一、「8 有害鳥獣の駆除」においては、捕獲数が大きく増えているものの、鳥獣被害は減少傾向にある。そのため、この捕獲数の増加はイノシシの生息数の増加によるものなのか、狩猟者の技術の向上などの他の要因によるものかの評価が難しいところである。
今後、アフターコロナに向け、十分準備を行い、目標値の達成を目指したい。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・移住は減少しているとはいえ、一定数を維持していることは評価できる。
- ・観光客数が減っているが、コロナ禍を機に観光客の呼び込み方や観光業の在り方を今一度検証し、指標のあり方も再設定することを期待する。